

2017年4月号・特集へのご意見

すべての根底にあるのは資質・能力の育成

「社会で活用できる資質・能力」は、学校内だけで獲得できるものではなく、学校教育の場が社会に広がり、そこで得た自信とともに社会に出るのが理想だと思う。「社会に開かれた教育課程」も、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、両者が協働して必要な資質・能力を育むと考えれば、学校教育の目標もイメージしやすい。学校に様々な分野の専門家しょうごうを招聘して教育を推進し、生徒が学校外でも積極的に活動することが大切で、学校と社会の垣根を低くすることから始めたい。 徳島県 匿名希望

正解を創っていく姿勢が大切

「理数探究」の解説で、千葉県・私立渋谷教育学園幕張中学校・高校の岩田久道先生の「曖昧さや不確かさがあっても、事実を基に自分の頭を働かせて答えを追い求め

る」という言葉に共感した。これは、どの教科にもあてはまることだと思う。すべての条件が整って物事が進むことはほとんどない。不備があっても進めなければ社会は成り立たないし、矛盾をいくつも抱えているのが現実社会だ。その中でたくましく生きていくには、少々の不備を乗り越える力が必要であり、正解を創っていく姿勢が大切になるのだと思う。 埼玉県・私立大妻嵐山中学校・高校 久保島昌一

自校の強みから考える

本校でも、私を含めて課題意識はあるものの、何から着手すればよいか分からず、動けない状況だった。しかし、育成が求められている資質・能力は、これまでの学校教育で育成してきた力と異なる全く新しい力ではないという言葉に勇気をもたらえた。そして「自校の強みから教育改善に向けた方策を考えていけばよい」という言葉は、学校教育目標を振り返る際のヒントになった。誌面の図やポイントを活用しながら、少しずつチームになっていければと思った。 広島県立広島観音高校 長光優樹

教育 ちょこトーク



テーマ
2学期に向けて
夏季休業中に
取り組んでおきたいこと

- 2学期の授業内容について、教科書レベルではなく、専門的な概説書や新書を何冊か読みたい。 長野県
- 読書。生徒に語る内容が時代遅れになっているようなので、生徒が興味・関心のあることを知るため。 福井県
- スモールサイズの合宿を行って、生徒たちと熱く語り合いたい。 香川県
- まとまって時間が取れる時こそ教材研究。アクティブ・ラーニングのシナリオ作りをしたい。 広島県
- 専修免許取得研修に参加。これまでの実践を総括し、新たな知見を幅広く学んでいきたい。 静岡県

お詫びと訂正

『VIEW21』高校版2016年度10月号「指導変革の軌跡」で掲載いたしました福岡県・久留米市立南筑高校の記事につきまして、お詫びと訂正をいたします。同号の34ページにて学校改革に向かうに至った校内状況が、「一部の教師の問題行動や生徒の生活規律の乱れなどが原因で、地域からの信頼を失いつつあった」と、一部の教師や生徒の問題行動が起因とする表現になっておりました。しかし、当時の南筑高校には教職員組織についての課題があり、中でも学校総体としての部落問題に関する認識の不十分さから、教師が保護者に対し、差別文書を送りつけるという前代未聞の部落差別事件を引き起こしたことが、地域からの信頼を失う大きな要因となったとの旨、当該校より掲載内容の修正についての申し出がありました。このことから、本記事の掲載内容は、適切さを欠く表現であると判断致しました。ここに訂正をするとともに、誤解に導き、かつ、読者の皆さまにご不快の念を持たせる表現となりましたことを心よりお詫び申し上げます。今後、このようなことが二度と起きないよう『VIEW21』編集部としまして、細心の注意と配慮をしていく所存です。

『VIEW21』編集部 統括責任者 馬淵 直

編集後記

今号の「大学の学び 最新ナビ」のコーナーでご紹介した就実大学での取材を通して、多様な仕かけによって、主体的な学生が育っていると感じました。本記事で取り上げた長期インターンシップや海外留学のプログラムなど、学生が学びたくなる環境を整備することも、仕かけの1つだと思います。同大学には、写真のようなグループワーク用のスペースや自習用のカウンターテーブル、プレゼンテーション・ルームなどが設置されており、目的別に学生が学ぶ環境が整っていました。そこは、学生たちが自然と集まり、学びに向かう、まさに主体的な学びの空間になっているのだと感じました。(廣田)



VIEW21 高校版 2017 8 月号

次号は 8月21日発行 (予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です